

平成22年度 すぎなみ大人塾 夜コース

## はじめてのソーシャルアクション

自分らしい社会貢献の実践力を身に付ける～

公開講座「創造力・表現力の実践力を身につける」

講演：特定非営利活動法人 CANVAS 副理事長 石戸奈々子さん

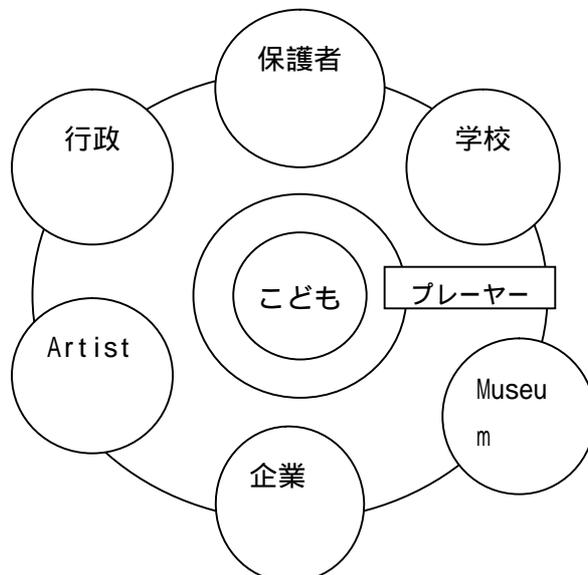
平成22年10月20日(水)19時より 場所：セッション杉並

### 1 石戸さん

CANVAS は、こどものための創造・表現の場を提供し、豊かな発想を養う土壌を育てることを目標として、様々な分野における関係者の協力のもとに、2002年11月に設立したNPO法人です。こどもたちが、昔ながらの道具を使ったり、最先端のデジタル技術を駆使したりして、何かを作り出していくための場です。そして、そのための技術、場を提供します。こどもたちのクリエイティブ活動のプラットフォームです。

全国の子どもたち一人ひとりの創造力と表現力を高めていく。そして、日本のこどもたちの表現力を豊かにし、世界へのコミュニケーションを活発にしていく。CANVAS はこどもたちの創造力・表現力を豊かにする取り組みを活性化し、国全体の底上げを図っていきます。

活動は、産学官のトライアングルの協働によって進めています。各地でワークショップを実施している方々、学校・教育関係者、ミュージアム・児童館関係者、大学などの研究者、アーティストの方々をはじめ、企業、NPO、官庁、地方自治体などとも連携して展開しています。ワークショップの普及プロジェクト「ワークショップキャラバン」も展開しています。デジタルやアナログ、またそれらを融合したもの、地域に根ざしたもの、アーティストと連携するもの、海外と交流するものなど、さまざまなワークショップやイベントを企画・コーディネート・実施をします。また、関連ワークショップについての実態を調査・分析をしています。



CANVAS を支える人。  
CANVAS で活動する人。  
それがプレーヤーです。

ここで事例をいくつかあげます。

#### 東京大学サマーキャンプ

夏休みに、大学のキャンパスにて、小中学生が、映画やクレイアニメーションを製作するサマーキャンプを実施しています。こどもたちはチームを組んで、ストーリーや絵コンテづくりから撮影、編集、音入れまで、3日間かけて全ての工程にチャレンジして、作品を仕上げました。

私は、CANVASの立ち上げの前にアメリカの大学院にいましたが、夏休みになるとキャンパスを地域に開放し、子どもたちに様々なプログラムを提供していました。日本の大学も、もっと地域に貢献していいのではという思いがありました。親の反応では、サマーキャンプに参加して、子どもの生活態度が変わったという反応も多く見られます。

#### おとコトひろば

おとコトひろばは、子どもたちが地域や世代を超えて、協働で音楽をつくることを支援するプロジェクト。誰もが自分がつくった詞や曲を投稿できるサイトを用意しています。そこでは東京の子がつくった詞に北海道の子が曲をつけるといったコラボレーションも可能となっています。そして、プロのミュージシャンにきていただいてワークショップを開催したり、子どもたちが自分がつくった音楽を発表するライブを行ったり、リアルとバーチャルを組み合わせた企画です。インターネット上で共有されている音素材を利用し、パソコンの音楽編集ソフトを使って「かえるのうた」をリミックスするワークショップや、『任天堂Wii』のリモコンをギター、ベース、ドラム、パーカッションなど、本物の楽器さながらに演奏できるように開発したプログラムなども開催しています。

#### ワークショップコレクション

年に一回、全国の最新プログラムを集めて、ワークショップの博覧会「ワークショップコレクション」を開催しています。デジタルからアナログまで、つくり、つたえる、ワクワクをひろげるメニューが満載です。昨年は80のワークショップが一同に介し、2日間で35000人の子どもたちが参加しました。

#### 地球コンピュータ～キッズデジタルサミット

2007年、日本・アメリカ・タイの3カ国の子供たちがデジタルの未来社会を考えて、インターネットの専門家にプレゼンする「キッズデジタルサミット」を開催しました。当日は日本・アメリカ・タイの各会場を同時中継でつなぎ、それぞれの発表者が順番に、自分の考えるデジタルの未来社会を大人に提言しました。

## 2 Q & Aコーナー

Q 1 : 活動の幅を広げるためにNPOの会員等を増やしたいと考えていますが、方法論を教えてください。

A 1 : 願えばかなうといつも信じて活動しています。 やりたいとまわりに言い続けることが大切だと思います。

Q 2 : CANVASの収入はどのような構成になっていますか？

A 2 : 7割くらいが企業からの受託事業費、2割強くらいが講座参加費やプログラム販売等、1割弱くらいが国・自治体からの委託事業です。

Q 3 : 学校教育にデジタル情報を持ち込む方策とCANVASでやりたいこと、また、その活動を実現させる方法論を教えてください。

A 3 : 学校教育は敷居が高く、設立当初は、まずは社会の人々の理解を得るため、課外活動から始めました。現在、政府が、デジタル教科書を2020年までに全ての子どもたちに配布するというビジョンを掲げていますが、その根本は、情報活用能力を身に付け、創造力・表現力を養うことにあると考えています。

Q 4 : 石戸さんの活動の中で、映画製作（昔の映画に子どもの自由な音声を入れる）があります。この映像を制作した意図はなんでしょうか？

A 4 : 子どもたちの教育利用であれば、映像も著作権をフリーにして自由に使わせてもらいたいという意図がありました。そのような趣旨に賛同してくださる会社に映像素材を提供してもらい、既存の映像を編集して、新しいオリジナルの映像をつくるというワークショップを実施しました。編集力を育むワークショップでもあるわけです。

Q 5 : 石戸さんが活動していて、ブレイクする瞬間にどのように考えていましたか？企業と一緒に活動していくコツは？

A 5 : ブレイクはまったくしていませんが（笑）、何がきっかけで、ぱっと変わるというものでなく、色んな積み重ねだったと思っています。ただ、ワークショップコレクションの来場者数が1万人を超えたあたりから、参加者数や企業等からの問い合わせ数は確実に増えたと思います。企業とは考え方が共鳴する先とやっているため、深くコツを意識していません。

3 学習支援者：広石拓司さんから 大人10（夜）のチーム別テーマ&活動について（石戸さんのコメントを交えて）コメントを発表する。

ここで、ワークショップを企画している大人塾のチームの紹介と石戸さんから簡単なアドバイスです。

#### 1) 世代間交流チーム

紹介：このグループは、ご年配や親やこども達が、体験や交流を通して自信や小さな気づきや喜びが得られるようにワークショップをつくったりしています。

回答：どちらか一方が提供するのではなく、一緒にやる雰囲気のあるワークショップにすると素敵だと思います。また、初めて会う人も多いので自己紹介を兼ねたアイスブレイクが大事だと思います。内容はいい本もたくさんあるので、なんでもよいと思います。自然と話さなければいけないシチュエーションとなり、盛り上がりがあればアイスブレイクの役割は果たすと思います。また次のワークショップに入っていく未来システムで終われるといいですね。

#### 2) おいしい野菜と簡単料理チーム

紹介：都会の中で生活する人を回って実際に野菜を目の前にして畑を体感してもらいたいです。簡単料理を提案したり、味や料理を体感させて、とれたての野菜から五感を刺激して体感してもらいたいです。

回答：CANVASは食育と絡めて野菜の紹介のビデオをつくるとかオブジェを作るとか最後何か作らせてしまいますが、自然体験の場を提供してほしいという意見は、保護者から多数寄せられています。このチームはまだテーマを考えている段階ですが、人気のプログラムになると思います。

#### 3) 地域のきずな～これってお節介～

紹介：虐待を事件ではなく身近にある問題として考えてほしいという願いで、色々な事をしゃべりあう最初の半歩を踏み出せたらと思っています。気軽に話したいので、もう少し楽しいワークショップにしたらいいか、虐待を深刻に話したいけれど軽くしたいという兼ね合いが難しいです。

回答：CANVASでは子どもが対象なので社会問題について話し合う事はやっていませんが、養護施設でワークショップを開催したことはあります。虐待された子どもたちが多数生活をしている施設でした。実際に開催してみると、先生方からは継続してやってほしいと頼まれました。作品や絵を作る最中に心の傷を解

放する事もあるから、ワークショップの意義を見出し、ディスカッションしてもおもしろいかもかもしれません。

#### 4) まちめぐりチーム

紹介：杉並の初心者の人がまちを知るきっかけとなるように、杉並のまちめぐり時間を考えています。地域というものに継続的に興味を持つきっかけとなればいいなと思っているんですが、何かいいアイデアがあれば教えてください。

回答：継続して来てくれる事が大事なので、初回はある程度仕込みが必要かなと思います。はじめは誘導されていても発見や感動があれば次につながるので重要だと思います。

#### 5) 空き家個室チーム

紹介：空き家個室は東京でも10万件あるらしいです。空き家があることで、防犯・景観上、地域に不安があります。また、日本は観光立国を目指しているわけですが、日本に来た外国人や既にいる外国人に向けても、有効な活用を考えています。内容はこれからですが、住まいを紹介する、地域の文化を通して体験交流する等可能性を色々考えています。問題は空き家の数を調べる方法です。世田谷での取り組みが一番進んでいます。何かアドバイスがあればお願いします。

回答：空き家空き店舗を使った経産省や都などの予算を使うと出来る事があるかもしれませんね。テーマがないのであれば、地域の人が喜ばれるものが出来ればいいと思います。興味がある人もぜひ声をかけてください。

おわりに

CANVASでは、ボランティアスタッフを広く募集しています。詳しくはCANVASのホームページで募集しているので、どうぞご覧ください。本日はありがとうございました。